

おわりに

サッカー・スタジアム等でのリユースカップ・システムの取り組みでは、容器の回収率をいかに高めるかが重要な課題である。容器を繰り返し利用し、環境負荷を減らすためには、85%程度の回収率が求められている。

そのため①デポジット制度の導入②情報提供と協力の呼びかけ③回収方法の工夫、などの対応が必要である。

本報告書では、カップ 1 個につき 100 円のデポジットをかけているビッグアイ（大分）の事例と、デポジット制は採用せず、チームの監督や選手からサポーターに対して徹底した協力を呼びかけ、ボランティアが回収に協力している日産スタジアム（横浜）の事例を詳しく紹介した。

いずれも 85%以上の回収率が確保できたことから、両サッカー場の取り組みとも環境負荷の低減につながったと評価できるものの、それぞれに長所・短所が見つかったことも事実である。

デポジット制の長所と短所

デポジット制の実施には、追加的な運営経費、カップと 100 円玉の交換業務による行列などのマイナス面があるが、容器の散乱を防止する効果をもたらし、なくなったカップ代金の補填の役目も果たしている。

一方、日産スタジアムでは、経費節減、安全確保の観点からデポジット制の採用を見合わせたが、ゴミゼロ運動を進める市長や横浜 F・マリノスの監督や選手らが、サッカー場の大型画面に登場し、サポーターたちにリユースカップ・システムへの協力を繰り返し呼びかけた。

また、スタジアムの活動を支援するボランティアが、試合終了後のカップ回収に汗を流すなど、デポジット制の運営とは別のかたちで回収率の確保に努力している。二つの事例の費用対効果について今回の報告書では言及できなかったが、両方の長所をミックスすることにより、一層回収率を高め、経費節減につなげる手法がありうることは明らかになった。

一方、音楽イベントや地域のお祭り、アミューズメント施設等での実証事業でもいくつかの点が確認された。まず、大規模な野外コンサートや、来場者の回遊性が高く閉鎖性の低い大型のイベントなどでは、デポジット制の実施は相当のコストを伴うものの、容器の紛失や散乱を防止するためには導入の効果がある。また、大規模であっても閉鎖性の高い遊園地等では、サッカー場や野外ライブ等の会場等に比べて入退場のピークが少なく、こうした場所については、必ずしもデポジットの実施を伴わなくても高い回収率が確保される可能性も確認された。

ただし、100 円のデポジットをかけているビッグアイ（大分）で行ったアンケートによると「リユースカップを返却せず持ち帰った理由はなんですか」との問いに、一番多かった理由は「記念品として欲しかったから」（9%）というものだった。デポジット制を採用していない日産スタジアムでは、50%がこの理由だったことを考えると、この種の行動をとる人々には、100 円のデポジットがカップ返却の動機づけにはならない

ので、デポジットの効用を「戻らなかった容器の損失補てん」という面からも再評価する必要がある。

期待できる社会的費用の低減

リユース容器導入の際の課題としては、イベントの内容や施設の状況、営業の形態などを総合的に勘案して制度を構築し、デポジットの有無や運営のしくみ、実施エリアや対象飲料の範囲などについて最適な選択を行うことが重要である。さらに今後のリユース容器の利用促進やデポジット制度の実施に向けては、利用者・販売者双方にとっての返却・回収方法のよりよいあり方の検討、小売店等における必要機材やストックヤードの確保、実際の利用を通じた容器の素材や形状・サイズの検討、デポジット金の管理等新たな社会コストの発生をどのようにとらえ、関係者がどのように負担していくべきか等の広範な検討も必要である。

現段階でのリユース容器の利用には、実際の環境負荷の低減や資源の有効活用のみならず、消費者をはじめ、飲料メーカーや販売事業者などの企業、導入場所の運営管理主体（企業、地方自治体等）など社会の幅広い層における循環型社会づくりへの意識啓発・実践を促す一つの契機をもたらすという側面もある。そして、企業や地域のイメージアップ、多様な主体の社会的責任の遂行といったコストでは端的に計れないソフト面でのメリットも生じている。これは短期的には企業にとっても社会にとってもコスト増の取り組みとなるが、とくに一定規模に達すれば長期的には経済的メリットの享受も考えられるほか、何よりも社会的費用（廃棄物処理やリサイクルにかかる社会全体での費用）の低減効果が期待できるであろう。

ごみゼロ社会の構築に向けて、今後リユース容器の導入についての検討や実際の取り組みがより活性化し、スポーツ施設やアミューズメント施設、音楽イベントや地域イベントなど現状では使い捨て容器が主流となっている場所において、飲食容器のリユースが当たり前となるような社会の実現が強く期待される。